

## 中濃農林事務所の普及活動状況 令和3年6月25日現在

### 今月の重点活動

#### ■スマート農業 直進&旋回アシスト田植機導入調査

スマート農業技術導入支援事業を活用し、関市武芸川町の農業法人がGPS機能付き直進&旋回アシスト8条田植機を導入した。この田植機は、基点を設定することでGPS機能により自動走行で田植えと旋回を実施する。

農業普及課では、水稲田植え作業終盤の5月28日に、作業時間の調査と作業効率の聞き取りを行った。熟練者による作業であったが、作業負担が軽減できること、落水しなくても田植え作業ができることで田植え後の水管理の時間が短縮できるなどのメリットを確認した。

農業普及課では、効率的な水田農業経営に向けて、導入効果の調査を通じてスマート農業を推進していく。  
(地域支援係)



【田植えの様子】

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■小学生（美濃市） 田植え体験

6月2日、美濃市立大矢田小学校5年生を対象とした米作りの体験学習が開催され、児童11名が手植えによる田植え体験を行った。

同小学校では、毎年「総合的な学習の時間」の取り組みとして、5年生が米作りについて学習しており、地域の農家やJAの協力のもと、田植えや稲刈り体験を行っている。

参加した児童は全員田植えが初めてということで、泥の感触に声を上げる児童もあったが、見る間にコツを掴んで、上手に手植えを行っていた。また、地元の方々から、昔の稲作や農村生活についての話を聞くなどの交流も行われた。

農業普及課では、未来ある児童に農業を身近に感じ、理解を深めてもらえるよう、関係機関と連携して食農活動を支援していく。  
(地域支援係)



【地元の方との交流】

### 安心で身近な「ぎふの食」づくり

#### ■水稲 生育調査

中濃農林事務所では、水稲にて品種や肥料の実証ほ等22ヶ所を生育調査地点として設定した。

6月16日、水稲生育調査が本格的に始まり、遅植えの4ヶ所を除く18ヶ所で、草丈、茎数、葉色の生育調査をJAめぐみの、全農岐阜と連携して実施した。今年も例年通りに田植えが行われ、概ね順調に生育していることが確認できた。

農業普及課では、水稲の収量・品質を確保するため、実証ほの設置等を通じて栽培技術の確立を図っていく。

(地域支援係)



【生育調査の様子】

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■夏秋なす 出荷目揃え会

6月18日に、中濃夏秋茄子生産出荷組合の出荷目揃え会が開催され、組合員、市場関係者、JAめぐみの及び選別作業職員等が出席した。

当日は出荷初日となり、実際に出荷されたなすをサンプルに出荷規格の確認を行った。組合員や選別作業職員及び市場関係者が相互に意見交換をしながら、なすの曲がりがないか、へたがコルク化していないか等、細部に亘って確認した。

農業普及課からは、栽培管理研修として、樹勢を維持していくためのこれからの管理や病害虫防除等について生産者に指導した。

今後も、安全で品質のよいなすの安定出荷に向けて、個別巡回等を通じて支援を行っていく。  
(地域支援係)



【なす目揃えの様子】

### ■ゆず 出前講座について自治会長会で働きかけ

関市上之保地域のゆずの出荷量は、平成27年の52tをピークに減少し、この4年間は30t強と停滞している。一方、ゆずを集荷する法人では、加工原材料不足が課題となっている。出荷量停滞の原因は、ゆずを収穫しない人または収穫できない人が増えてきたためと考えられる。

そこで、6月1日、農業普及課では上之保地区の自治会長会に出席し、「ゆずの出前講座」の開催を提案した。

この講座は、農業普及課職員が集落に出向き、ゆずに関する様々な課題について地域の方々と話し合い、収穫しなくなった、収穫できなくなったゆずを少しでも出荷につなげようという取り組みである。

自治会長会では「ゆずの出前講座」実施の承認が得られたことから、「ゆずの出前講座」の案内文書を上之保地区の9自治会、61班で回覧してもらい、要望がある地域で出前講座を開催する予定である。  
(地域支援係)



【自治会長会の様子】

## 地域資源を活かした農村づくり

### ■キウイフルーツ 東海農政局むらづくり審査会

6月18日、令和3年度東海農政局むらづくり審査会が、関市役所会議室でリモート開催された。

これは、豊かなむらづくり全国表彰事業に、JAめぐみのほらどキウイフルーツ生産部会の取り組みが優良事例として、関市から推薦されたことによるもので、農林事務所ではこれまでの部会の取り組みの取りまとめ等の支援を行ってきた。

当日は、関市役所農林課職員がプレゼンテーションを行い、昭和51年のキウイフルーツとの出会いから、紆余曲折を経て、洞戸地域の特産品となり、今年度からJAめぐみのが取り組む「ほらどキウイを未来に繋ごうプロジェクト」の活動までが紹介された。

6月24日には現地調査が行われ、東海地区の受賞者が決定される。当部会は、令和2年度の神山部会長の飛騨美濃特産名人認証以降追い風が吹いており、今回の表彰事業がさらなる部会および地域の活性化につながることを期待される。  
(地域支援係)



【プレゼンテーションの様子】